

= 高品質な“ぎふ”の米 =

米づくりのスタートは種籾から

◇◆◇ 「薬剤吹き付け種子」を活用しよう ◇◆◇

☆ 「薬剤吹き付け種子」とは ☆

・岐阜県では [ヘルシードTフロアブル 7.5倍] の薬剤が種子量の3%吹き付けてあ
(飛驒を除く) [スミチオン乳剤 100倍] ります。

(注)；この種子は危険防止のため着色剤(ウォーターブルー)で着色されています。なお、浸種後の液に種子を浸けても消毒効果はありません。

◎ 浸種(消毒と催芽)を上手にするには ◎

・消毒の効果は浸種中に進みます。

| 種子(kg) | 水(ℓ) |
|--------|------|
| 4 | 16 |
| 10 | 40 |

- 種子と水の容量比は1：2とする。(重量比では1：4相当)
- 籾袋の中味はゆったりと入れる(4kg網袋はそのまま使えます)。
- 浸種の始めに水中で籾袋をゆする、上げ下げし、袋の中心部まで水が行きわたるようにする。網袋は破れないように丁寧に扱って下さい。
- 浸種の積算温度は100℃～120℃(水温15℃で7～8日)程度とし、停滞水で行う。
- 水の汚れ、異臭が発生したときは静かに水を入れ替える。
- 催芽は「はと胸」程度(幼芽1mm位)になるように。(裏面の図)

★ 薬剤吹き付け種子の取扱注意事項 ★

- 「空き袋」及び「保証票」は収穫期まで保管して下さい。
- 河川・ため池等では浸種しないで下さい。
- 薬剤吹き付け種子には直接手をふれないで下さい。
- マスク・ビニール手袋をして作業して下さい。
- 浸種廃液は側溝・水路・河川等へ流さないこと。必ず適正に処理して下さい。

★ 種子が残ったら ★

- 残った種子は、飯米や家畜の飼料には使用しないで下さい。
- 残った種子は、必ず適正に処理して下さい。

〈詳細については、JA又は農林事務所にお尋ね下さい〉

良い種子
良い苗
ゆたかな稔り

薬剤吹き付け種子で一等米を作ろう

揃いの良い苗を作るには 十分に吸水、確実に催芽させてから播種しましょう!!

種子消毒の方法

(薬剤処理の場合)

薬剤吹き付け種子

無消毒種子

良好な催芽

↑ 幼芽 1 mm位

良質米づくりは、
「良い苗」づくりから。
健苗づくりは、
『薬剤吹き付け種子』で。

混ぜない

種子消毒 (24時間薬液浸漬)

- ・浸漬薬液はスミチオン乳剤 (1000倍) とヘルシードTフロアブル (200倍) を混合する。
- ・水温10~20℃ (低温は避ける)

※使用量早見表 (容量比で種子1:薬液1以上)

| 種もみ量 (kg) | 薬液を作るに必要な水量 (ℓ) | スミチオン乳剤量 (ml) | ヘルシードTフロアブル量 (ml) |
|-----------|-----------------|---------------|-------------------|
| 4 | 8 | 8 | 40 |
| 10 | 20 | 20 | 100 |

- ・水で洗わないこと。

ポイント I

- ・浸種することで種子消毒ができる。
- ・容量比で種子1:水2の割合で浸種。(浸種液は種もみ重量の4倍量相当)
- ・始めに水中でゆすり、その後は停滞水で攪拌しない。

浸種・種子消毒

浸種

水の汚れ、
異臭を発した時は
静かに水を交換
(発芽不良を回避)

ポイント I

- ・容量比で種子1:水2の割合で浸種。(浸種液は種もみ重量の4倍量相当)

共通ポイント II

- ・積算水温で100℃~120℃
(15℃で7~8日)

共通ポイント III

- ・催芽は、「はと胸」状態の確認。
(幼芽 1 mm位が適当)

催芽

は種

地球温暖化の影響は種子の休眠にも!

登熟期間の高温により品種や栽培地によっては種子の休眠が深くなることが知られています。浸種時の積算温度を守り、ハトムネ状態をしっかり確認するとともに、とくに複数品種を同時に催芽処理する場合などは、発芽状況によって別管理をするなど、よく観察し確実な催芽を目指しましょう。